

科 目	必・選	担 当 教 員	学 年 ・ 学 科	単 位 数	授 業 形 態						
世界史 (World History)	必	赤崎 雄一	1 年 生 知能機械工学科	2	通 年 週 2 時 間						
授業概要	世界の歴史の大きな流れを学ぶ。										
到達目標	1. 世界各地域の歴史・文化を理解し、国際化社会に対応した教養を身につける (A)										
評価方法	年 4 回 の 定 期 試 験 = 95% 発表など = 5%										
教科書等	『明解 世界史A』 (帝国書院) 、 『明解世界史図説エスカリエ』 (帝国書院) 毎回、プリントを配布する。										
内 容					学習・教育目標						
第 1 週	世界史を学ぶということ	人類の出現と文明の成立			A						
第 2 週	東アジア世界	中国文明の成立			A						
第 3 週		東アジア文化圏の成立			A						
第 4 週		諸民族に統治された中国			A						
第 5 週	南アジア世界	南アジア世界			A						
第 6 週	東南アジア世界	東南アジアの歴史的特質			A						
第 7 週	ヨーロッパ世界	ギリシアとローマ			A						
第 8 週		西ヨーロッパ世界の成立とキリスト教			A						
第 9 週	イスラム世界	イスラム世界の誕生			A						
第 10 週		イスラム世界の拡大と分裂			A						
第 11 週	ヨーロッパとイスラム	十字軍			A						
第 12 週	繁栄するアジア	イスラム諸国の繁栄			A						
第 13 週		中国の繁栄			A						
第 14 週	大航海時代のヨーロッパ	ルネサンスと宗教改革			A						
第 15 週		大航海時代の到来			A						
第 16 週		アジアの交易とヨーロッパ			A						
第 17 週	欧米の革命	ヨーロッパの国づくりと国際関係			A						
第 18 週		アメリカ合衆国の独立			A						
第 19 週		フランス革命			A						
第 20 週		ナポレオンとウィーン体制			A						
第 21 週	イギリスの時代	産業革命による技術の発展			A						
第 22 週		産業革命後のロンドン			A						
第 23 週		茶と砂糖からみる世界史			A						
第 24 週	ナショナリズムの進展	国民国家の発展			A						
第 25 週		ロシアの改革とアメリカの発展			A						
第 26 週	アジア諸国の動揺	インドと東南アジアの植民地化			A						
第 27 週	東アジアの大変動	列強の中国侵略と清			A						
第 28 週		朝鮮と日清戦争			A						
第 29 週		東アジアをめぐる国際関係			A						
第 30 週		辛亥革命			A						
(特記事項)	JABEE と の 関 連										
	JABEE	a	b	c	d1	d2a) d)	d2b) c)	e	f	g	h
	本校の学習 ・教育目標	A	A	C-1	C-1	C-2	B	B	D	C-3	B

1. 合格ラインについて、特に記載の無いものは、60点以上を合格とします。

2. 定期試験について、特に記載の無いものは、評価配分を均等とします。(【例】年4回定期試験を実施した場合の各定期試験の評価配分は、特に記載の無いものは、25%ずつになります。)

「世界史」ガイダンス

現代は世界の一体化がかつてないスピードで進み、民族問題、人口問題、環境問題など地球的規模の問題も深刻化しています。これらの問題の解決方向を見いだすために、私たちは人類の歴史から学ぶ必要があります。

「世界史」の時間は大きく分けて2つの部分に分かれています。

第1部 前近代の諸文明

第1週 ～ 第11週

世界を東アジア世界、南アジア世界、東南アジア世界、イスラム世界、ヨーロッパ世界の5つの地域に分け、それぞれの地域の歴史的・文化的特色を明らかにします。

第1週	人類の出現と文明の成立	教p. 8
第2週	中国文明の成立	教p. 10
第3週	東アジア文化圏の成立	教p. 18
第4週	諸民族に統治された中国	教p. 24
第5週	南アジア世界	教p. 26
第6週	東南アジア世界	教p. 30
第7週	ギリシアとローマ	教p. 44
第8週	西ヨーロッパ世界の成立とキリスト教	教p. 50
第9週	イスラム世界の誕生	教p. 38
第10週	イスラム世界の拡大と分裂	教p. 40
第11週	十字軍	教p. 52

第2部 一体化に向かう世界

第12週 ～ 第30週

アジア諸国の繁栄に惹かれたヨーロッパでは大航海時代を迎えます。大航海時代にアジア・アメリカからもたらされたさまざまな物産はヨーロッパに大きな富をもたらしました。その後、豊かになったヨーロッパでは産業革命・市民革命を経て国力をさらに充実させ、世界的規模での交流をさらに活発化させます。その代表が19世紀に覇権を握ったイギリスでした。

19世紀になると、イギリスなどヨーロッパ列強は、アジア諸国に対して経済だけではなく政治的な支配ももろみます。このウエスタン・インパクトのなかでアジア諸国は大きな変化を遂げます。

第12週	イスラム諸国の繁栄	教p. 62
第13週	中国の繁栄	教p. 66
第14週	ルネサンスと宗教改革	教p. 74
第15週	大航海時代の到来	教p. 78
第16週	アジアの交易とヨーロッパ	教p. 88
第17週	ヨーロッパの国づくりと国際関係	教p. 84
第18週	アメリカ合衆国の独立	教p. 94
第19週	フランス革命	教p. 96
第20週	ナポレオンとウィーン体制	教p. 98
第21週	産業革命とイギリス	教p. 106
第22週	産業革命後のロンドン	教p. 108
第23週	茶と砂糖からみる世界史	教p. 92
第24週	国民国家の発展	教p. 110
第25週	ロシアの改革とアメリカの発展	教p. 116
第26週	西アジアとインドの植民地化	教p. 124
第27週	東南アジアの植民地化	教p. 130
第28週	列強の中国侵略と清	教p. 132
第29週	朝鮮と日清戦争	教p. 136
第30週	東アジアをめぐる国際関係	教p. 138